

インターン募集のご案内

シリコンバレー・ジャパン・プラットフォームSVJP)では学生インターン(大学生・大学院生)の受け入れを行っています。

事務局チームに入っていただき、リサーチ、資料の編集業務、イベントの企画・運営、その他関連する事務のサポート業務などに携わっていただきます。

第一線で活躍される起業家や経営者の方とも一緒にプロジェクトを作り上げていきます。やる気のある方、プロアクティブな方、アントレプレナーシップにご関心のある方のご応募をお待ちしています！

募集要項

主な業務内容	SVJPの2つの柱となる活動、コーポレートプログラムおよびアントレプレナープログラムのうち、アントレプレナープログラムの運営サポートが主な業務となります。 各プログラムについては次頁以降のインタビュー記事(抜粋)をご参考下さい。 業務の一例 ・データ・情報収集、リサーチ作業のサポート ・資料作成、編集、翻訳、文章要約、文字書き起こし ・SVJPが主催するイベントの企画・運営サポート ・ウェブサイトの記事作成、SNS投稿/管理 など
やりがい アピールポイント	・フレキシビリティ: 予め決められた業務が多いわけではないため、当人のやる気/スキルに応じて様々な業務に関わることが可能です。 ・キャリア育成: 外資系コンサル/金融出身のメンバーと勤務するほか、起業家の方とも関わりを持つ環境のため、多様なキャリアを歩む方と接点を持つ機会になります。
対象	・大学生以上 ・国籍不問(日本での就労が可能であること/ビジネスレベルの日本語力は必須) ・英語力(流暢であることが望ましいが、英語力を伸ばすことに前向きな方も歓迎) ・PCスキル(Microsoft Word, Excel使用経験) ※留学生の場合は、「資格外活動の許可」を有する者
期間	6ヵ月以上(期間については応相談)
勤務時間	原則平日 9:00-17:30、週2日(主に火曜と木曜) ※学業や就職活動などとの両立のため、勤務の詳細は柔軟に相談可 ※火曜日に下記勤務地に出社ができる方(応相談) ※イベント開催時などは、場合により時間外勤務有
報酬	応相談
勤務地	シリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム事務局オフィス 東京都千代田区紀尾井町1-3 東京ガーデンテラス紀尾井町 紀尾井タワー(ヤフー株式会社方) ※2020年12月1日現在、新型コロナウイルス対策のため、火曜日のみ出社しております。その他の日はリモートワークとしています。
採用プロセス	1次選考…書類審査 2次選考…面接 ご関心のある方は、以下をメールで info@svjp.org宛にお送りください。 ・履歴書 ・志望理由(ご自身のスタートアップに対する興味やシリコンバレーへの関心についても触れて) ・インターンが可能な期間と希望開始日 ※書類のフォームは問いません。なお、資料上のすべての個人情報は、選考以外の目的には利用いたしません。 1次選考を通過した方には、概ね1週間以内に財団からご連絡します。)
お問い合わせ	info@svjp.orgまでお問い合わせください

本格的なデジタル革命期に対応すべく、日本とシリコンバレーを結ぶ

～ 産業とテクノロジーの動向を把握し、最善の「価値提供」を目指す～

日本事務所長／伊能 綾子

—はじめに、SVJP の立ち上げ背景と、親団体である一般財団法人アジア・パシフィック・イニシアティブの関係性についてお聞かせいただけますでしょうか。

「日本企業とシリコンバレーを結ぶ懸け橋になりたい」。この思いから SVJP の活動は始まりました。日米関係の歴史はこれまで、政治の中心であるワシントン D.C.

や金融の中心であるニューヨークなど、主に米国の東海岸を中心に形成され、西海岸との関係性はある意味希薄だったと思います。

そんななか、第 4 次産業革命をけん引するシリコンバレーと日本の結びつきの弱さ、そして日本経済の将来に危機感を抱いたのが、日系 2 世であるスタンフォード大学名誉教授のダニエル・オキモト氏（SVJP 共同議長）でした。

2014 年、オキモト氏は安倍首相に向けて一通のメールを送りました。当時、シリコンバレーでは日本の存在感が薄くなる一方で、巨大市場を抱える中国が存在感を増していたといいます。「日本の首相がシリコンバレーを訪問したことはない。今がその時だ。」とオキモト氏が思い立った翌年の春、安倍首相はシリコンバレーを初訪問し、オキモト氏や現地の起業家らと意見交換の場を持ちました。

この安倍首相の訪問がきっかけとなり、2016 年の夏に日米 2 つの財団法人（米国側は公益財団法人米日カウンシル、日本側は一般財団法人アジア・パシフィック・イニシアティブ）の共催事業という形で SVJP が正式に発足。以来、両地域の各分野の有識者が交流するプラットフォームを提供し、イノベーションと活力を増大させるための触媒として、日本が、ひいては世界全体が技術革新をうまく取り入れながら成熟していくための一助となることを目指しています。

—SVJP は具体的にどのような事業を展開しているのでしょうか。

私たちは、日本とシリコンバレーを代表する企業の経営者や IT ベンチャー、起業家同士が、親密な信頼関係を構築し、連携を深められる機会を創出するため、さまざまなイベントやプログラムを企画・運営しています。

たとえば、年に数回開催している「シリコンバレー・リーダーを囲む会」では、シリコンバレーで活躍するトップランナーの来日に合わせ、朝食会や昼食会を実施。ラウンドテーブルで事業内容、経営哲学、日本に対する考察等を聞き、意見交換する場を設けています。また、最先端のイノベーションに関する「月例勉強会」をシリコンバレーで実施しており、SVJP の会員企業が現地でテクノロジー企業、ベンチャーキャピタル等の関係者と交流する機会も提供しています。

最近では、日米を代表する起業家のコミュニティの醸成、世界市場に挑戦するスタートアップの支援を目指したアントレプレナープログラムも正式に立ち上がりました（後述）。

本格的なデジタル革命期を迎える今、こうしたプラットフォームの拡充を通じて、日本とシリコンバレーの間に強固なパートナーシップを構築し、両地域の人脈やテクノロジーの知見を育む支援を、今後ますます広げていきたいと思っています。



日本とシリコンバレーの「起業家プラットフォーム」を拡大させる

～ビジネスのトップリーダーを起点に、日米の懸け橋をつくる～

アントレプレナープログラム リーダー/土居 隆之

—はじめに、「アントレプレナープログラム」がどういったものなのか教えていただけますでしょうか。

「アントレプレナープログラム」は、「コーポレートプログラム」に続き、SVJPの第二の柱として2019年から取り組み始めたものです。これは、日米を代表するテックアントレプレナーのコミュニティ作りと、その活動を通じた日本のスタートアップ企業のグローバル展開を支援することを目指したプログラムで、アプローチとしては2つあります。

1つ目はIPO（新規株式公開）前後あるいは、同程度の規模の拡大フェーズにあるスタートアップ、ベンチャー企業の起業家に限定して、シリコンバレー発の起業家たちと親密な関係性を築けるコミュニティを形成し、醸成していくこと。

もう1つは、シリコンバレー経由で世界展開を目指す日本発のスタートアップ、ベンチャー企業をさらに生み出していくための支援です。実績としては、2018年に、シリコンバレーで最も著名なアクセラレータとして知られるY Combinatorと共催で、東京大学や慶應義塾大学からの協力も得ながら1,000名規模のイベントを開催しました。YCが日本でオフィシャルにイベントを開催したのはこれが初めてで、大きな反響を呼びました。テックアントレプレナー志向のある大学生、大学院生、これからシリコンバレーに、世界に羽ばたいていきたいと考えているスタートアップ企業などに向けて、力強いメッセージを発信できたと思います。次のステップとしては、その第2弾となるイベントを2020年秋に開催し、引き続き未来の有望なアントレプレナー候補となる人材を、シリコンバレーのネットワークにつなげていこうと動いています。（※）。

—活動するうえでSVJPだからこそ実現できることなど、独自の強みはありますか。

SVJPでは、日米両国の経済界や学術領域の第一線で活躍する11名のエグゼクティブ・コミッティー・メンバーが、それぞれの知見や人脈により、私たちの活動を実際にサポートしてくれています。「アントレプレナープログラム」に特に関わりがあるのが、スティーブ・ジョブズ氏のブレインとして名高い実業家である比嘉ジェームス氏と、もともとは起業家であり、現在はシンガポール拠点でインドや東南アジアなど新興国を対象としたベンチャーキャピタルを運営している佐藤輝英氏、株式会社マネーフォワードのファウンダー兼CEOの辻庸介氏、グリー株式会社の共同創業者で、現在は慶應義塾大学発のベンチャーキャピタルである株式会社慶應イノベーション・イニシアティブの代表である山岸広太郎氏の4名のネットワークをSVJPのアセットとしてフル活用しています。

—SVJPでの仕事の魅力としてどういったものが挙げられますか

たくさんありますが、一つは、この活動の推進力とも言える「人脈」です。各大学の関係者はもちろん、エグゼクティブ・コミッティー・メンバーには前述の4名のほかにも、ボストンコンサルティンググループ シニア・アドバイザーである御立氏、トラスト・キャピタル株式会社代表の藤井氏など、業界問わずさまざまなビジネスリーダーが在籍しています。そうした方々とフラットに触れあい、アドバイスをもらいながら業務を進め、同じ目線で仕事ができる。これは得がたい経験と感じています。

